

## 塩屋区防犯パトロール隊（沖縄県）

### 活動地域

皆さん、こんにちは。ただ今、ご紹介にあずかりました沖縄県うるま市で活動しております塩屋区防犯パトロール隊でございます。よろしくお願いいたします。

まず初めに、うるま市の概要を紹介します。うるま市は平成の大合併により、2市2町が合併し、人口12万人となり、沖縄県では那覇市や沖縄市に次ぐ3番目の都市になりました。場所は沖縄県本島のほぼ中央に位置し、沖縄県を代表する闘

牛やエイサーが盛んで、地形的には離島を抱え、米軍基地が存在していることから、うるま市は沖縄県の縮図だといわれています。観光面では、世界遺産に登録された勝連城址（じょうし）が有名で、その城址を題材にした青少年の演劇集団、肝高の阿麻和利（きむたかのあまわり）は、県外はもとより海外での公演も行われています。また、もずくの生産高では全国一を誇り、毎年4月の第3日曜日には、地元の平敷屋（へしきや）漁港において、もずく祭りも開催されております。

私たちの活動地域は、豊かな農地に恵まれ、サトウキビの生産高では沖縄県内で1位になった時期もありました。しかし、近年では、農業従事者の高齢化や後継者不足により、遊休農地が目立つようになりました。さらに、眼下に広がる中城湾（なかぐすくわん）振興地区の埋め立て地に企業立地が進み、職住接近の環境から、アパート建設による都市化現象も進んでいます。活動拠点としている塩屋区は、現在人口が1,400人の集落であります。海に近く広大な干潟を利用した製塩業が盛んだったことから、塩屋、方言ではマースヤーという地名になったといわれています。



### 団体の概要

団体の概要であります。当時、私は自治会長をしており、塩屋区内において少年の深夜徘徊が問題となり、問題を解決するため、区内に住む警察OBに相談しましたところ、区民によるパトロール隊を結成してはどうかというアイデアを頂きました。私は早速、区内に住む警察官や地元駐在所の警察官、活動の中心となる区の役員や子供会の役員にも呼び掛け、平成19年5月に、塩屋区自治会を母体とした塩屋区防犯パトロール隊を結成することになりました。

また、結成と同時に青色回転灯装備車の申

#### 団体の概要



- 1 隊員数 14人(平均45歳)
- 2 発足 平成19年5月
- 3 活動地域 下原(しちやばる)  
川田区、塩屋区、豊原区、前原区、高江洲区

請を行い、それ以来継続して防犯パトロールを実施しています。結成に際して、顧問を警察のOBの方にお願ひできたこと、塩屋地域に多数の警察官が居住していたこと、地域内に駐在所が設置されていたことなどの好条件が重なり、結成当初から警察の積極的な参加や指導・助言を頂き、感謝しております。

## 活動の概要

活動内容と特徴であります。かいつまんで紹介いたします。活動に際しては、自治会長が事務局を兼務し、年4回の情報交換会を実施し、地元駐在所からは管内の事件事故の発生状況の説明を受けております。また、具体的な活動としては、毎週木曜日の夜間9時から10時までの地域パトロールを柱に、中学校PTAなどと連携した少年の居場所作り活動や美化活動にも力を入れています。

美化活動では年2回の大清掃実施や海岸線のクリーン作戦を実施しています。子供たちの通学路の安全を確保するために行われる通学路クリーンデーには、高江洲中学校全校生徒、中原小学校と高江洲小学校は5、6年生が参加し、毎回1,000人を超える参加があり、地域住民を巻き込んだ区内の年間行事として定着しております。その活動が認められ、平成18年4月には、国土交通大臣表彰を受けております。

特徴的な活動としては、地元企業や区民の協力による、古紙回収やリサイクルバザーによる資金造成、川田駐在所と連携したパトロールの実施、パトロールの際に気付いた点を書き留めるパトロール日誌の作成、不審者情報や注意を呼び掛ける立看板の作製等があります。現職警察官3人が、パトロール隊員として参加し、パトロールの要領や子供たちへの声掛け要領など、随時指導を受けております。また、青色回転灯装備車両には警察官がいつも乗っているとのおわさが子供たちの間で広まり、区内において夜間9時以降子供たちの出歩く姿を見かけなくなりました。

### 活動内容・特徴

#### 【活動内容】

- ・児童の登下校時間における交通安全指導の実施
- ・下校時間や夜間における防犯パトロール
- ・防災無線や広報マイクを活用した防犯広報の実施
- ・少年の健全育成活動
- ・美化活動
- ・地域防犯活動への協力

#### 【特徴】

- ・地元企業の協力によるバザーによる資金造成
- ・現職警察官がパトロール隊員として参加
- ・パトロール日誌の作成
- ・重機等を利用した清掃活動
- ・防犯看板の作製



写真は交通安全指導の様子です。毎朝の声掛け運動として定着し、「できる時間にできる場所で」を合言葉とし、継続をモットーに、わが子が卒業した後もずっと頑張っている方が何人かおり、大変心強い限りです。夜間パトロールは、あらかじめ学校や警察から子供たちがたむろする場所の情報を頂き、コースを設定しております。思い出に残る出来事としては、夜間の暗闇の公園をパトロールしていると、飲みかけのビ

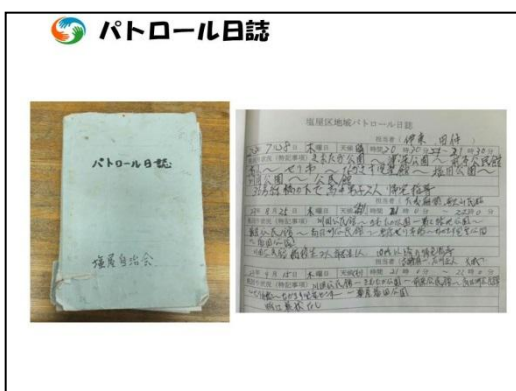
ール缶や袋を開けたばかりの水割り用の氷が放置されており、私たちがパトロールに来たことに気付いた子供たちが逃げていったと思われたことや、真っ暗な公園の駐車場でミニバイクを分解している少年たちに出会ったことがありました。そのときの少年たちは、「バイクの修理をしている」と主張していましたが、ソワソワと落ち着かない様子であり、明らかに怪しく思えたので、その場で110番通報して、少年たちを警察官に引き継いでおります。後から聞いた話では、少年たちは、那覇市内で盗んだバイクを改造している最中であつたとのことであります。



青少年健全育成の様子であります。問題行動の見られる中学生と塩屋区防犯パトロール隊、高江洲中学校父親の会、学校職員、うるま警察署が合同で行ったソフトボール大会です。ソフトボール大会の後、交流食事会が行われ、子供たちと一緒に作ったカレーを食べながら、学校や地域での生活や進路のことについて話し合い、和気あいあいと有意義な交流の時間を過ごしました。そのことをきっかけに、子供たちも素直に心を開き、今でも進路や友人関係に関する悩み事相談を受けております。



美化活動の様子であります。学校周辺や地域の公園などの清掃活動を行います。特徴的なのは、人力で厳しいところは役所に要請して重機を借用し、大がかりな作業を行います。燃料代などは自治会が負担していますが、重機のオペレーターをパトロール隊員が手伝えることもあります。



古くなっておりますが、これがパトロール日誌です。塩屋区防犯パトロール隊は、パトロール等で気付いたことなどを記載するパトロール日誌を活用しています。パトロール日誌は現在3冊目になり、今も継続して活用しています。その日に気付いたことや反省事などが記載されており、単に引き続き事項だけではなく、これまでのパトロールの思い出として重宝しています。この日誌を読めば、子供たちのたむろしている場所がすぐに分かり、夏休みの合同パトロールの際にも大変役立っています。

いる場所がすぐに分かり、夏休みの合同パトロールの際にも大変役立っています。

地域イベントへの参加の様子です。塩屋区防犯パトロール隊は、普段のパトロール以外にも、地域のイベントに積極的に参加しています。この写真は平成24年にうるま警察署で行われた年末年始総合警戒地域安全運動出発式に参加した様子です。また、右側の写真は、高江洲小学校創立100周年記念パレードの際の交通整理の様子です。



塩屋区防犯パトロール隊では、活動資金造成のため、古紙回収やリサイクルバザーを行っており、古紙回収と空き缶回収で年間25万円、区民から提供された商品を販売するリサイクルバザーは年5回を開催し、多いときは土日で10万円を売り上げたこともあります。私たちは、この資金を燃料代や電灯代などの消耗費に充てています。



地域の事業所との連携もあります。株式会社セシルコーポレーションは、コールセンター業務で従業員の9割が女性であることから自治会を通してパトロールの依頼があり、同社周辺を夜間のパトロールコースに設定しました。その後に交流が生まれ、自治会の夏祭りにはセシルより飲み物の提供や祭りへの参加があります。また、今年3月からJA沖縄サービスステーションから、防犯ボランティア車両に対してガソリン1リッター5円引きの協力をいただいております。同ステーションでは、緊急時などにもいろいろと情報交換を行い、パトロールに役立っています。



東日本大震災の後、行政が中心となり、各自治会ごとに自主防災組織の立ち上げを推奨し、自主防災組織立ち上げの目的や役割分担、防災訓練などの年間事業計画の話合いが現在10

自治会で進められています。私たち防犯パトロール隊は、地域防犯とともに地域防災にも力を入れており、今後も地域と連携した活動を続けていこうと思います。

このように、地域のいろいろな活動に参加することにより、子供たちとも顔見知りとなり、これまで返事もなかった子供たちが、あいさつを交わすまでに変わってきました。また、区民にも変化が現れ、授業中に区内でたむろしている生徒がいると、公民館に情報提供があり、当時、自治会長であった私は現場に駆け付けるとともに、中学校の生徒指導の

先生に連絡を取り学校へ連れ戻したことも何度かありました。我々の日頃の活動が、地域の目となり、隠れた犯罪の芽を取り除くための活動として、これからも頑張っていこうと思います。ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答

---

●質問 問題行動のある少年との交流の意義はどのようなことでしょうか？

○回答 問題行動のある生徒は、日頃地域や学校でも、怒られてばかりいるのが現状です。そのことを反省して、子供たちを何とか褒めたいという地域からの声がありました。先ほど説明しましたように、この問題行動の生徒を集めてチームを作り、学校職員、警察署、私たちやPTAも各チームを作ってソフトボールの試合をしました。やっぱり年の若い子には勝てませんので、どうしてもこの子供たちが中心となります。その交流の後で、この食事会をして、子供たちを褒める場面を作るとというのが大きな目的であります。

●質問 そういった子供さんを、具体的にはどのように誘い出すのですか？

○回答 日頃の活動を通して、パトロール中や、いろんな場面で声を掛けることで顔見知りとなります。いついつ、こういうことがあるよと言うと、子供たち同士が連絡を取って、じゃ、これチームを作って参加しますと。日常の活動の中で、やっぱり交流が始まるというふうに私たちは捉えています。